

報 告 事 項 1

「府立高校のさらなる特色づくりの推進事業」の検討状況について

平成22年2月17日

<事業目的>

これからの知識基盤社会をリードする人材の育成

～幅広い教養、豊かな感性、社会に貢献する志～

<育てたい人物像>

- ・幅広い教養と実行力を持ち、挑戦し続ける人物
【企業経営者・弁護士等】
- ・逆境をチャンスに変える強いリーダー
【政治家・プロスポーツ日本代表監督等】
- ・国際社会で活躍する人物、夢を一筋に追い求める人物
【研究者・宇宙飛行士等】
- ・新たな社会づくりや社会貢献に取り組む人物
【起業家・NPOリーダー等】

<事業概要>

府立高校の特色づくりの一環として、10校を「進学指導特色校」とし、文理ともに対応した進学指導に特色を置いた専門学科「文理学科」を設置する。
（文理学科の概要）
 ・前期選抜で府内全域から生徒募集（1学年160名）
 ・人文科学・社会科学・自然科学の各領域で探究的な学習を行う
 ・適切な時期に文科（人文社会国際系）、理科（理数探究系）の小学科に分かれる
（実施対象校）
 北野 豊中 茨木 大手前 四條畷 高津 天王寺
 生野 三国丘 岸和田

<成果>

- ★学力診断共通テスト等による学力の総合評価
- ★進学希望達成率向上
- ★授業満足度の向上等

日本一の府立高校をめざし、10校が多彩な教育活動を展開して、知識基盤社会をリードする人材を育成します。

確かな学力の向上を図ります

- 「日本一のカリキュラム」をめざして、特色ある教育課程を学校が編成（H22早期に公表予定）
- ・1年次では共通履修科目で文理幅広く学習
- ・2年次で文科・理科に分かれ専門性を深化
- ・全生徒が専門科目「理数数学I」「総合英語」を履修し、英数を基礎から応用まで徹底的に学習
- ・全生徒が「課題研究」で得意のテーマを深く探究
- ・独自の特色ある学校設定科目を開設
- ・「スーパーレッスン」や自学自習教材を提供
- 「学力診断共通テスト」を活用して、生徒に身につけさせたい力を「見える化」
- ・生徒の学力診断 ・教員の指導点検

豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくみます

- 各界のリーダーによる講演会
- 高校生国際会議・国際テレビ会議の開催
- 生徒の海外短期留学
- ボランティア活動の推進
- 運動系クラブ・文化系クラブの充実



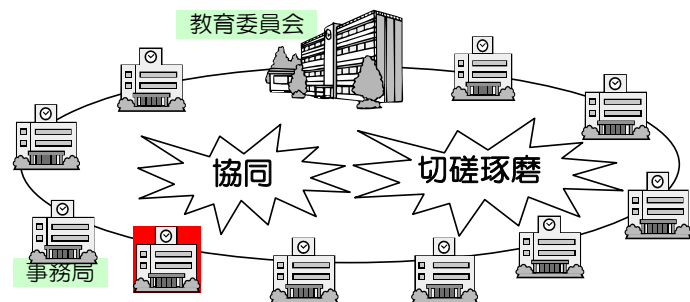
高い志をはぐくみ、進路実現をめざします

- 「志（こころざし）学」の実施
- 国際科学オリンピックに向けた合同学習会
- 合同研究施設訪問
- 土曜日を活用した補習・講習
- 大学院生TAの活用



教員の指導力向上をめざします

- 学識者、教育産業と共同した授業スキルアップ研修
- 生徒による授業評価
- 海外トップリーダー校との交流
- 教員の海外短期派遣



10校の力を結集し、質の高い「学び」と進路希望を実現

共通システムの構築（平成22年度）

- ネットワーク（つなぐ）機能とデータベース（蓄える）機能を兼ね備えた「進路支援システム」を新たに構築
・進路データ・教育コンテンツの共有 ・教材・指導法の蓄積
- 「10校共通テスト」の開発・実施 → テストシステムの構築・問題作成～採点集計業務
- 「スーパーレクソクラス」の整備 → 遠隔授業、TV会議のためのWEBカメラの設置
- 学校のコンセプトに応じた施設設備の充実 → 理科設備や語学学習環境

入学者選抜

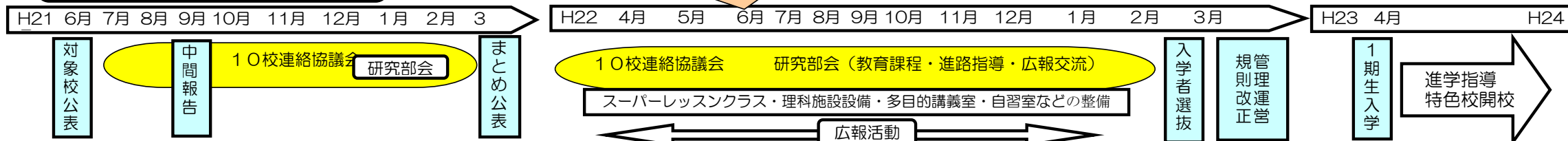
- 「文理学科」に係る入学者選抜
- 前期で募集
 - 独自の入学者選抜を実施

各学校の教育課程、特色ある教育活動等、取組み内容の公表

事業評価

・事業目的に対する評価基準を設定し、取組みとその成果についての評価を行い、事業の改善に資する。

スケジュール



理念

大阪の教育を先導する「ナビゲーションスクール」として、
大阪の教育力の向上をめざす

- 大阪の教育課題解決のモデルとなるナビゲーター的な役割を果たす学校
- 生徒の特性に応じてその可能性を最大限伸ばす学校
- 実際の授業場面に即した授業改善のOJTを通じて教員の授業力向上を図る学校
- 教育センターのスタッフ・施設設備等を活用し教育内容の深化・充実を図る学校

対象校

大阪府立大和川高等学校

事業の趣旨を踏まえ、教育センターに隣接し効果的に事業目標の達成を図ることのできる、府立大和川高等学校を実施対象校とする。

成果

- * 生徒・保護者の幅広いニーズに応える
⇒ 指導教諭等の輩出
⇒ 希望進路の実現率向上

取組み内容(現在検討中のもの)

準備委員会報告書の構成案

(3月公表予定)

- 附属研究学校の理念
- 教育課程について
 - ・ 教育課程編成の基本方針
 - ・ 教育課程編成の工夫
 - ・ 設置する教科・科目等
 - ・ 学校設定科目の目標及び内容
 - ・ 教育課程の編成モデル
 - ・ 科目選択例
- 附属研究学校における研究について
 - ・ 研究テーマ例
 - ・ 研究推進の組織・体制
- 施設設備について
 - ・ 授業研究教室
 - ・ コミュニケーション教室
 - ・ 適応指導教室

教育課程モデル案 (教育課程表・専門科目等は現在検討中)

1年	国語総合	現代社会	数学I	数学A	生物基礎	化学基礎	体育	保健	芸術I	コミュニケーション英語I	家庭基礎	探究ナビI (含む社会と情報)	LHR
2年	現代文B	古典B	世界史B	日本史B or 地理B	数学II	物or地基礎	体育	保健	コミュニケーション英語II	英語表現I	専門科目等	探究ナビII (含む社会と情報)	LHR
3年	現代文B	古典B	世界史B	日本史B or 地理B	体育	コミュニケーション英語II	英語表現II	A群から2単位以上選択	専門科目等			探究ナビIII	LHR

教育課程の特徴

- * 普通科を基礎として、興味・関心、適性に基づく進路実現に柔軟に対応します。
- * 専門科目、教科横断型学校設定科目を設置します。
- * 各教科で言語活動の充実を図るとともに、ICT活用を推進します。
- * 生徒のキャリア発達の観点から、教育活動の効果測定を実施します。
- * センターの施設・設備を活用した科学技術教育・情報教育を展開します。

附属研究学校における実践・研究の推進

授業研究の推進

- 授業研究教室を活用し、恒常的な授業研究を展開、ネットワークカメラで
 - 《分析》 授業を記録・再生し、振り返り・分析に活用
 - 《配信》 優れた授業実践を記録・編集し、配信

コミュニケーション教室等の活用

- ICT機器を活用し調査・協議・発表を組み合わせた学習活動を展開
- テレビ会議型授業による海外の学校等との交流学习を実施
- 社会性・リーダー性・国際性の育成のための授業モデルを開発

適応指導教室の設置

- 大阪初の高校適応指導教室を設置
 - 不登校生徒等の支援充実
 - ◆ 「学びへの自信」を回復
 - ICTを活用した個別指導から、集団学習への円滑な移行を支援し、原籍校への復帰を促進
 - ◆ 「心の居場所」づくり
 - 教育センターの相談機能を生かした心理的支援

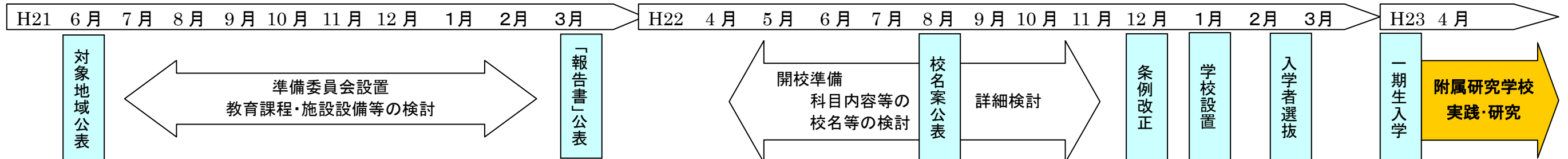
PISA 型学力をはぐくみ、キャリア教育の核となる授業
学校設定教科「探究ナビ」

- * はぐくむ力
 - 知識・技能を活用する力、他者や社会とかかわる力
 - 課題に気づき探究する力、表現する力
- * 教科の枠を超えた体験的な探究活動
 - ・ ミッションの解決に向けた、体験型の学習やプロジェクト型の学習
 - ・ 人文・社会・自然等の複数の分野にまたがるテーマについての多面的・多角的な探究
- * 世代や国を超えた人々との交流活動
- * ゼミ形式、グループ学習

入学者選抜

- * 「附属研究学校入学者選抜(仮称)」として実施
- * 選抜日程 … 前期選抜と同時期
- * 選抜方法 … 附属研究学校の特色に合わせた選抜方法を検討

スケジュール



<事業目的>

将来のトップアスリートや体育指導者のみならず、メンタルトレーナー、スポーツ・福祉施設指導員等、幅広い分野で活躍する人材を育成。

<事業概要>

生徒の多様な学習ニーズと進路選択を実現するため、新たな専門学科として、体育科を設置する。

<取組内容>

【教育課程】 専門教科「体育」に関する専門科目等を 25 単位以上開設

○幅広いスポーツ分野の進路に応じた学習メニュー

- ・ トップアスリート育成をめざし、サッカー、陸上など、グラウンド系専門種目の授業を多く取り入れる。
- ・ スポーツ、健康、保健など、幅広い分野で活躍する人材の育成をめざし、多彩な選択科目を設定する。

○教員養成系国立大学等への進学に対応できるカリキュラム

センター試験にも対応できるよう、国数英を中心に必修教科・科目の充実を図るとともに、選択科目を充実させる。

○その他の特色

- ・ 長期休業日等を活用した、キャンプ、登山、スキーなどの野外活動の集中講義を実施
- ・ 生徒の興味や適性等に応じ、専門種目の選択の幅を広げ、少人数授業を実現
- ・ 進学実現、学力向上のための、補習・講習を実施 ⇒スポーツと勉強の両立

教育課程計画

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1年	国語総合		世界史B	現代社会	数学 I		数学A	理科総合A	芸術 I	英語 I	英文法基礎	体育専門科目				総合	HR	野外活動													
2年	現代文	古典	世界史B	数学 II		生物 I	英 II	英 R	家庭基礎	情報C	選択A	体育専門科目				総合	HR														
3年	現代文	古典	日本史B		数学 II	生物 I	英 II	英 R	選択B	選択C	体育専門科目				総合	HR															

【進路指導】

○進路希望実現に向けたキャリアガイダンス

進路指導体制の充実を図るとともに、生徒一人ひとりの進路希望に応じた「個別の指導計画」を策定

○外部招聘のトレーナー兼コーディネーターによる技術指導や進路相談

生徒の状況や到達度を把握し、個別の目標や練習メニューを提示するとともに、スポーツ界の最新の動向に関する知識や幅広い人脈を生かし、生徒に多様な活動の場を提供

<対象校> 府立摂津高等学校

府立高校有数の広いグラウンドと、開校以来運動系部活動の加入率が50%超である特長を生かし、グラウンド種目を中心とした体育科の教育活動を展開することで、将来のアスリート等をめざす生徒が広く府内全域から集う学校をめざす。

<成果>

- 体育系大学等への進学率 50%以上
- 授業や進路指導に対する満足度向上
- 5年以内に「全国大会トップ3」

【特色ある教育活動】

- 日本の最高レベルの知識や技能、経験を有するスーパーインストラクターの招聘
スポーツ界で活躍するトップアスリート、コーチ、アドバイザー等を招聘
- 教員養成系大学や、スポーツ系大学との高大連携
大学生等による教育支援や高校生向け講座への生徒参加の推進
- 地域と連携し、地域に根ざしたスポーツリーダーを育成
「地域スポーツの拠点校」として、小中学生や地域のスポーツ活動を支援するとともに、総合型地域スポーツクラブなど周辺地域との連携を推進



【施設・設備】 全天候型グラウンドの整備



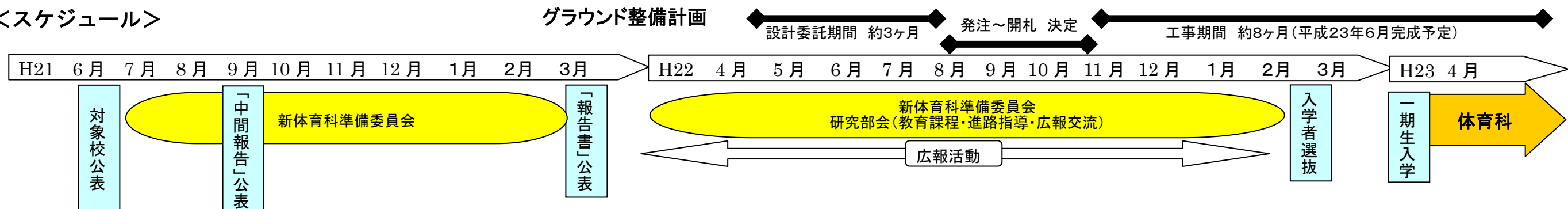
体育の授業と部活動において、天候に左右されずトレーニングできる全天候型グラウンドのメリットと、均質で安定したグラウンド面や転倒による負傷が少ないという人工芝の特性を生かし、練習の質的向上を図り、技術力・競技力の向上をめざす。

○グラウンド稼働率の向上

雨天時でも授業が可能であり、グラウンド稼働率が大幅に向上
* 稼働率が約200日⇒約300日

<スケジュール>

グラウンド整備計画



理念

柏原地域連携型中高一貫教育のめざすもの

「地域で学び・育ち、地域を支え、次代を担う生徒をはぐくむ学校」

- 【柏原東高校】⇒「入りたい学校」(地域に密着した魅力ある学校)、
「入ってよかった学校」(一人ひとりの進路希望を実現し、満足度の高い学校)
○ 生徒、保護者、地域のニーズに応じた教育活動を充実し、地元中学からの信頼度UP!
- 【柏原市立中学校】⇒柏原東高校との連携により、中学校での学習意欲や進路への目的意識の向上
○ 柏原東高校との連携により教育活動を充実し、進路希望を実現!

対象地域

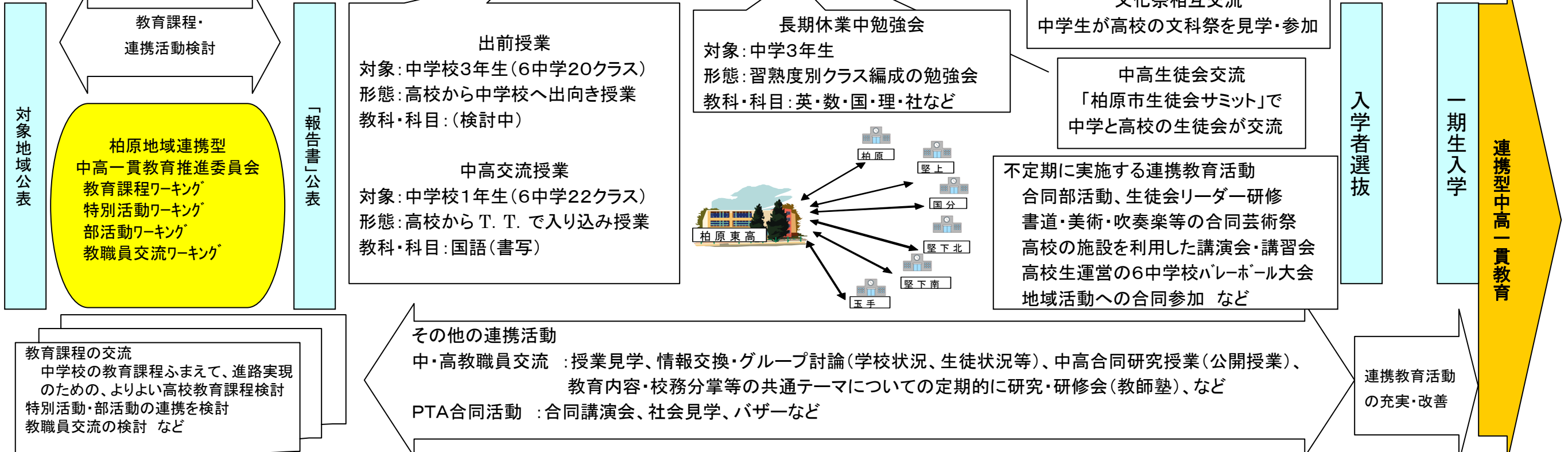
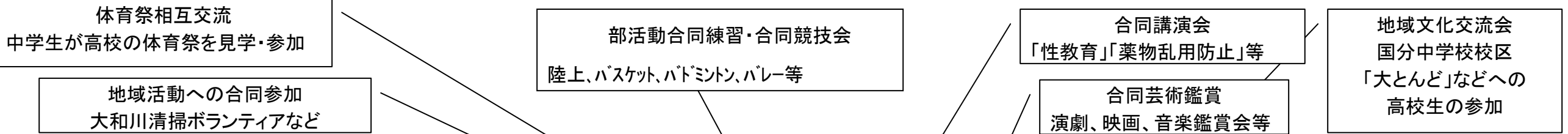
能勢地域連携型中高一貫教育の成果を継承・発展し、新たに拡大する連携型中高一貫教育の対象地域を柏原地域とする。

- 【対象高校】 大阪府立柏原東高等学校
- 【対象中学校】 柏原市立柏原中学校、堅上中学校、国分中学校、
堅下北中学校、堅下南中学校、玉手中学校

成果

- 平成 23 年度
* 連携型中高一貫教育の実施
- 平成 25 年度
* 進路決定率の向上
* 地元率向上

連携内容(予定)



入学者選抜

連携型中高一貫教育に係る入学者選抜

(日程) 2月下旬 選抜実施、3月初旬 合格者発表

(選抜の資料) 調査書、小論文及び面接の成績等

※学力検査は実施しない